

1年2組

 お気に入りの場所にしたいな みんなの基地  
 ～ 基地から始まる遊び ～


## 私たちのお気に入りの場所にしたいな

教室前の学級園では、「トン、トン、トン」と子どもたちが釘を打つ音が響いています。生活科の時間を中心に木材を用いた「みんなの基地」を作っているのです。きっかけは、子どもたちが自然体験園に作った基地でした。とても楽しそうで子どもらしい夢の詰まった活動です。ぜひ、教師自身も楽しんでみたいと夏休み中に少しずつ作って見たのです。

夏休み明け初日。「先生、なにこれ！」木材が組まれた様子を発見した子どもたちの第一声です。「いやあ、みんなと楽しんでみたくって。手伝ってくれる？」私のお願いをみんなが受け入れてくれ、みんなの基地作りのスタートです。初めて金槌を持つ子も多く、釘を打つのも一苦労です。それでも、上手な子に教わりながら、だんだんとコツを覚え、3日もすればもう立派に釘を打てるようになりました。また、作っているうちに子どもたちの中からたくさんのアイデアが飛び出していきます。「2階建てにしたいな」、「そしたら階段もいるね」、「色も塗りたいな」、「地下室も欲しいよ」、「完成したらかき氷を食べたいな」、「私たちのお気に入りの場所にしたいな」。しかし、物事を進めるには、課題がつきものです。木材が足りなくなってしまったのです。そこで、山羊の飼育などで木材を使用している3年1組に木材を借りてはどうかという結論に至りました。早速、学級訪問です。「木材を貸してください」と1年生の緊張した声に一生懸命耳を傾ける3年生。そして、「いいよ」と優しい一言。1年生も頬が緩みます。さあ、今日も「トン、トン、トン」とよい音が響きます。明日は、どんな家になっているのかなあ。



## 「また いきたいな」 小布施

11月5日（金）に遠足へ出かけてきました。テーマは、『遊びの進化』です。その目的地となったのは、小布施でした。

出発は、附属中学前駅です。まずは、自分で切符を買います。教育実習生の授業で、お手製ダンボール自販機を使って模擬購入をしていたため、「〇〇さん、まず、子どもボタンを押すんだよ」とアドバイスをしながら、みんなばっちり買うことができました。中には、「初めて自分で切符を買ったよ」と嬉しそうに切符を握りしめている子もいました。さあ、電車は、小布施に向かって出発です。普段と反対方向に進む電車に、ワクワクしながら車窓を眺めます。もちろん、乗車マナーだってばっちりです。これも、実習生の道德の授業で、どんな姿で乗ればよいのか考えていたためです。小布施駅で、降りると今度は、バスに乗車します。小さいバスなので、みんな肩を寄せ合い乗り込みました。そして、10分ほどで、到着です。着いたのは、目的地の小布施総合公園です。

待ちに待ったとばかりに、駆け出す子どもたち。目指すは、自分たちの遊び場です。網を用意していたグループは、小川を目指します。一見、何もいなそうな川ですが、彼らの手にかかれば、獲物はすぐにつかまります。この日の収穫は、エビとザリガニです。満足そうにみんなに披露してくれました。木を目指すのは、木登りグループです。難しい木にもチャレンジしようと登る木を定め、一気に登ります。どこにいても高いところがお気に入りです。芝生を目指したのは、遊び道具持参グループです。ボールや縄跳びを楽しみました。大型遊具を目指すグループは、長い滑り台やターザンロープを飽きずに何度も何度も楽しめます。小布施の遊具は、私たちの基地みたいです。どこか取り入れられたらなあ。秋色に染まる葉っぱを見ているうちに、そのきれいさを感じた子たちは、落ち葉シャワー浴びを楽しみます。秋を身体いっぱい感じる事ができました。

短い遊びの時間でしたが、それぞれの遊びを時間いっぱい楽しんだ子どもたち。遊びを終えて集合した子どもたちは、とても満足した様子で、それぞれの遊びをやりつくし、進化させたのだと感じました。



また、大型遊具のグループは、小さい子が泣いていて、その子のお母さんのところまでその子を連れて行ってあげたというエピソードがあったそうです。他を思いやる成長も感じられうれしくなりました。

さて、遊びもさることながら、この日、一番良い表情だったのは、昼食の時間です。だって、おうちの方が作ってくれたお弁当です。お弁当の蓋を開けただけで、もうすっかり笑顔の子どもたち。おうちの方のお弁当には、何もかないません。お忙しい中、ご準備いただき、ありがとうございました。おかげさまで、小布施の地でたくさんのことを学ぶことができました。

## ありがとう祭りを開こう！

『ありがとう祭り』を開きました。ことの始まりは、Tさんの「ぼく、生き物祭りを開きたいんだ」という一言でした。生き物が大好きなTさん。これまで生活科の時間に捕まえた生き物を他学年に紹介したり、それを実際に触ってもらったり、捕まえてもらったりして生き物のおもしろさを伝えたいというのです。学級の垣根を超えた提案でしたので、楽しいお祭りになりそうだと感じました。ただ、この提案は、すんなりと受け入れられませんでした。学級の子の中に「生き物がかわいそうだ」という意見があったのです。確かにたくさんの人に触られたりすると弱ってしまいそうです。結局、その日は結論がでずに、再検討となりました。

後日、Tさんを含めた推進派が再提案したのが「ありがとう祭り」でした。「ありがとう」としたのは、基地づくりのために木材を快く貸してくれた3年1組のお兄さんとお姉さんを念頭にしていたことでした。相手意識が生まれたことで、祭りの内容も定まっていきました。3年生が喜んでくれるようなお店をたくさん出すことにしたのです。ザリガニ屋、スライム屋、どんぐり屋、葉・リース屋、ゲームセンター、お化け屋敷、射的屋、ガチャ屋、自動販売機屋の計9つのお店屋さんを開くことになりました。Tさんは、もちろ



んザリガニ屋です。たくさん孵化した赤ちゃんザリガニを大切に育ててくれる人に販売するお店を考えました。また、他の店も出店の準備を進めていきます。自然体験園から枝やどんぐり、落ち葉をたくさん集めて商品を作るのは、葉・リース屋です。三角形のリースは、飾りの配置もよく、とてもかわいらしい商品となりました。ライバル店のどんぐり屋だって負けていません。小布施で拾ってきたどんぐりをグルーガンでくっつけてかわいいキャラクターをつくり上げました。お化け屋敷屋は、



基地がお店です。1階部分をシートで覆い、お客さんが懐中電灯を片手に進んでいきます。中から現れるのは……。ドキドキハラハラのお化け屋敷の完成です。



迎えたお祭り当日。3年1組のお兄さん、お姉さんがたくさん遊びに来てくれました。入り口でお金となるどんぐりを受け取ると、それぞれのお店を回り始めます。待ち構えていた2組の子どもたちは、ちょっと緊張しながらも接客にあたります。どのお店も大盛況です。

- ・3年生が喜んでくれてうれしかった。「すごい、すごい」と言ってくれた。
- ・人形のおうちが売れないかと思ったけれど売れてうれしかった。
- ・3年生が葉を見て、「すごい」ってニコニコ笑っていてうれしかった。
- ・いっぱい売れてうれしかった。
- ・「いらっしゃいませ」、「ありがとうございます」って言えた！
- ・売っているものを3年生が「かわいい」って言ってくれた。もっと頑張りたくなった。
- ・3年生が笑ってくれてうれしかった。
- ・3年生が「また来るね」って言ってくれたから楽しかった。
- ・すごく楽しかった。みんなが喜んだ。いいチームワークだった。

子どもたちの感想から、子どもたち自身の手ごたえや喜びが伝わります。この「ありがとう祭り」を通して、大きな財産になったと感じるのは二つです。一つは、相手意識です。子どもたちの感想の中に『3年生が』という言葉がたくさん並びました。それだけ、3年生のことを考えながらの活動でした。今まではどちらかと言うと、自分や自分たちのことだけを考えていたものが、「3年生のために」と考えられたことは大きいと感じています。そして、もう一つは、創造力です。どのお店も商品を喜んでもらうため、また、ゲームを楽しんでもらうためにはどうしたらよいのかよく考えていました。ダンボールにカ



ップを紐で吊り下げ、カプセルが出てくるように考えたガチャ屋。粘り具合や色合いを考えたスライム屋。UFOキャッチャーのようにしたかったけれどもうまくいかず、磁石でくっつける仕組みを考えたゲームセンター。うまくいかないことを乗り越えながらアイデアを形にしていきました。このような子どもたちの姿を見ていると、やりたいことの中に、学びがたくさんあるのだと改めて感じました。

